

## 1.DX への取組

2025 年、多くの企業が直面する予想される「2025 年の崖」という大きな課題が浮かび上がっています。この「崖」は、デジタル技術の進展や社会の変化に対応できない企業が存続の危機に直面するという未来を示唆しています。特に AI 技術の急速な発展は、これまでのビジネスモデルや業務プロセスを根底から覆す可能性を秘めています。

私たちは、このような大変動の時代においても、企業としての存続と成長を続けるために DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組を積極的に進めています。私たちの目指す DX は、単なる技術導入にとどまらず、業務の全体最適化や新しいビジネスモデルの構築を意味します。顧客の期待を常に超えるサービスを提供することを目標とし、信頼とともに社会の発展に貢献する企業を目指しています。

この新しい時代において、変化に適応し続け、顧客のニーズに応えることが私たちの使命です。そういった姿勢で、私たちは常に最前線での挑戦を続けます。

会社名 株式会社カワイ  
代表者氏名 河合 伸一郎

## 2.DX 推進の方向性

### ●業務プロセスの改善・ビジネスモデルの創出を図る

#### ① デジタル技術を導入・習得し、業務プロセスの改善

繰り返し行われるルーチンワークや自動化できるタスクを特定し、デジタル技術を用いて自動化

#### ② 業務プロセス改善のノウハウを蓄積し、顧客提案に活かす

#### ③ デジタル技術を活用し、顧客のニーズに合わせたオリジナルのソリューションを提供し、市場での差別化を図る

### ●DX 人材の育成

#### ① 必要なスキルをリストアップし、それに応じて研修を実施

#### ② 定期的なスキル評価を実施し、それに基づいて研修内容やカリキュラム更新

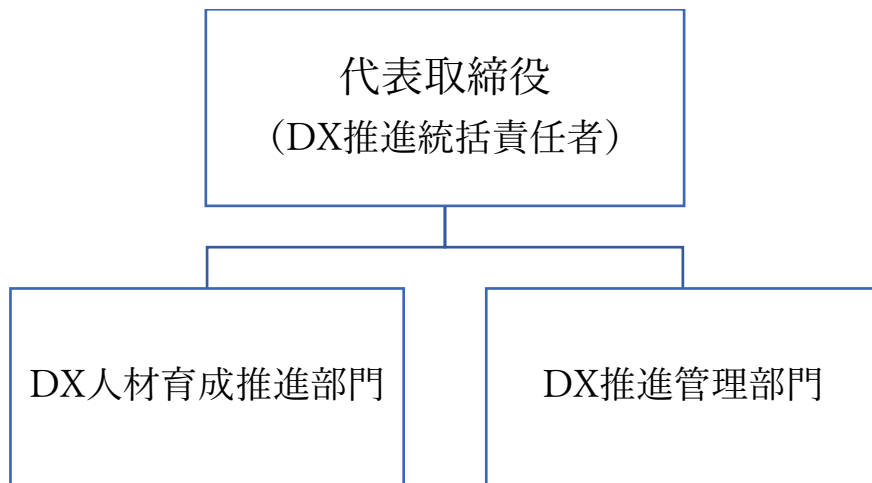
#### ③ 情報共有ツールを導入し、社員同士の知識共有を促進

### 3.DX 推進の戦略

- ① 業務プロセスの改善
  - ・業務の無駄を特定後、RPA を使用して Excel 転記作業・メール添付資料の自動保存・自動入力などの自動化を行う
  - ・ChatGPT を使用し、議事録や稟議書の作成を効率化
- ② 新たなビジネスモデルの創出
  - ・業務プロセスの改善によりデジタル技術のノウハウを蓄積させ、顧客提案に活かす
- ③ DX 人材育成
  - ・情報共有ツールを導入し、社員同士のノウハウやスキルの知識共有を促進

#### 3.1 DX 推進体制

- ・DX 推進統括責任者を中心に各部門を設置し、推進メンバーを選任
- ・各部門と DX 推進統括責任者で定期会議を月 1 回開催



#### 3.2 DX 推進のための環境整備

- ① 社内データ一元管理ツール導入
- ② 業務プロセス改善のため RPA・AI 導入
- ③ データのバックアップ
- ④ 社会情勢に適応するためのインフラ整備

## 4.DX 推進の目標指標

- ① 業務プロセスの改善数
- ② 新しいビジネスモデルの展開数
- ③ スキル評価
  - ⇒基準値を設定し、それを超える社員の割合を計測

## 5.サイバーセキュリティ対策

- ① セキュリティポリシーの策定
- ② セキュリティ対策・研修の実施
- ③ セキュリティ対策の定期的な見直し